

木曾駒ヶ岳・宝剣岳 平成21年4月19日(日)

メンバー: I.O, K.O (記) 天候: 快晴

コースタイム: 千畳敷 8:20 ~ 中岳(9:30-9:40) ~ 木曾駒ヶ岳頂上(10:25-11:15) ~ 八丁平・荷物デポ (12:05-12:10) ~ 宝剣岳頂上(12:40-12:50) ~ 八丁平 13:30 ~ 千畳敷 14:00

概要: 長く続いた晴天は、週半ばに一旦崩れたが、週末は気温がぐんぐん上がり、西日本では夏日を記録する天気となった。金曜日までの疲れもあり、土曜日は休養を決め込み、谷川岳までの遠出は止めにした。近場で候補場所を検討し、久しぶりにロープウェイで千畳敷に上がることにした。まだまだ雪を楽しみたいので、便利なこの場所にした。予定は木曾駒ヶ岳の山スキーと時間があれば宝剣岳を往復することにした。このところ、高速道路料金 1000 円割引の恩恵に預かっている。但し、経路は伊勢湾岸経由を取らなければならない。

土曜日夕刻に出発、駒ヶ根ICで降り、菅の台駐車場で仮眠。そして、朝7時過ぎから運行するバスとロープウェイで2613mの千畳敷まで一気に上がった。料金は往復一人3800円。少し高いが、それだけの値打ちはある。今日から、千畳敷にロープウェイが設置され、スキー場としてもオープンしていた。積雪は380cm、雪はたっぷり過ぎるくらいある。登山者や山スキーヤー、山ボーダーがやって来て、それなりの賑わいであった。ゴールデンウィークに入ると、かなり混雑するのであろう。

22年振りに見る、雪と岩の宝剣岳東壁は、天気も良かったので、青空に聳え、アルペンムードを満喫させてくれた。私が東壁を登った時期は、2月の厳冬期で天候もあまり良くない上、気温も低く、上部のオケラのクラックには雪が詰まっていた苦勞したことが思い出された。その点、今日は絶好の登山日より、岩場にこだまする声が、何となく楽しげに聞こえた。

千畳敷から、シールとスノーシューをそれぞれ着用、八丁平のコルに向けて登り出した。そして、左手に大岩が見える辺りで、安全のため、登山アイゼンに履き替えた。前回の継子岳に比べると雪が緩み、傾斜も緩くまじである。この状態だと、帰りの滑降は心配なさそうである。30年ほど前に、山スキーに来たときは、技術はまだ未熟、ピンディングはワイヤー、靴は革靴とあって、滑るどころではなかった。スキーを担いで降りざるを得なかったし、やっつけられないという思いであった。その時に較べれば、技術も向上したが、用具もかなり進歩した。

行程は、八丁平からシールを着けて中岳に上り、そのまま一旦下降、そこから木曾駒ヶ岳山頂に到着した。山頂からの眺めは雄大そのもの、今日は、先週とは反対に、こちら側から御岳を見ることになった。ここから見る継子岳の傾斜はかなりなもの。やっぱり傾斜はかなりきつかったんだと、納得した。雪原には古いトレースが一本残っているだけ、今日の無風快晴の天候に感謝し、滑降を開始した。今回は相手も安心してミニスキーを操作し、登山者から、「うまい」の聲がかかっていた。コルに下ってから、中岳に登り返し、再びスキーを付けて、八丁平に向けて滑り出す。雪も緩み、こも快適に斜面を降りることができた。さらに、時間に余裕があったので、スキーと荷物をデポして宝剣岳を往復。急な雪壁と鎖場を慎重に通過し、狭い頂上に立った。この後は、八丁平から千畳敷に向けて急な斜面を快適に滑り降り、2時にロープウェイ駅に到着した。

帰りは駒ヶ根高原のこまくさの湯に立ち寄り汗を流した。この辺りの桜は満開の盛りは少し過ぎていたが、山桜やソメイヨシノを楽しむことができた。今回も春の陽光の下、満足できる山スキーの一時を過ごすことができた。

ただ、帰りの高速道路は、春の行楽と高速1000円効果のためか、中津川を先頭にして14km程、渋滞していた。

ホームページへ <http://allmt.hp.infoseek.co.jp/>

写真集はこちらへ <http://picasaweb.google.co.jp/allmountain/wkgbnC#>

左写真: 千畳敷から八丁平のコルを望む、左は宝剣岳



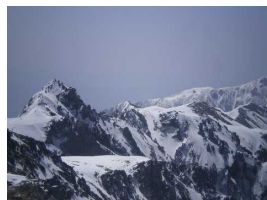
コルを目指して



宝剣岳東壁



八丁平からの宝剣岳



木曾駒ヶ岳山頂



木曾駒の斜面



宝剣を登るパーティ



宝剣岳山頂



山頂から見た千畳敷

